

新年のびあいさつ



美郷町長

松田 知己

新年おめでとうございます。さまざまな思い出を作りながら平成十八年が幕を閉じ、清々しく十九年が始まりました。皆様には、昨年の良き思い出を振り返りながら、新たな意欲を持って今年を展望されているものと存じます。私も、いよいよ開催を迎える国体や未解決の大きな課題を見据え、心静かに一年の計を立てているところです。

さて、昨年は合併後の変化や不安を乗り越え、安定感を実感する年として、そして総合計画を踏まえた町づくりを具体化していく年として重要な位置付けの年でした。各種施策を意識して継続実施することで安定感醸成に努めるとともに、一層の地域融和を目指した「町の日」制定や町民歌CDの作

成、また安心感に繋がる各学校の耐震工事完了や災害時の各種協定の締結、定住促進を目指した空屋・空地情報の提供や幼保一元化を推進する認定こども園、消費ニーズを見通した堆肥センター建設着手などに取り組んだ年でした。

一方、こうした取り組みを支える財政環境は、合併前には想定できない程度の厳しさが伴う年でした。三位一体改革による予想以上の収入の減少や、国の制度改正による町負担の増大は、「まずは投資事業の展開を」という認識を改めさせるとともに、合併効果の実現を一層意識させる年でもありました。

こうした流れを経て迎えた十九年は、ある意味で決意の年となります。

皆さんが望む美郷づくりにより力強く進んでいくために、緊急性を踏まえ、旧町村から引き継ぎ実施してきた事業の再検討を行うとともに、公共施設のあり方を検討するなど、限られた財源の効果的な投資と合併効果の発現を促進していかなければなりません。

そのためには、合併の本旨に立ち返り、「かつてはこうだった」という認識を改めるとともに、将来に向かって何に投資し、何を削減すべきかを改めて問い直すことが必要です。つまり、町の財布を考えながら、自分達が住むこの美郷をどうしたいのか、物心両面での美郷イメージを皆さんで共有することが必要となります。

こうした認識を踏まえ、十九年はまずは国体の成功を期します。約五十年

に一回の開催を通じ、皆さんの一体感と美郷意識の浸透、さらには美郷の情報発信の中で、望む美郷イメージの共有を図りたいと思います。また、住み続けるために必要な生活基盤、例えば水環境の保全、上下水道や道路、防災施設の整備などに努めるとともに、農・工・商の連携による産業振興などにも努めてまいります。

いずれにいたしましても、「心」を大切にしたい町づくりに努めてまいりますので、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。皆様に取りまして健康の十九年となりますことをお祈りし、新年のあいさつといたします。



新年のごあいさつ



美郷町議会議長

伊藤 福章

新年あけましておめでとうござい
す。

町民の皆様には、ご家族おそろいで
良いお正月をお迎えのこととご推察
し、謹んでお慶び申し上げますと共
に、日ごろから議会に對しまして、深
いご理解とご協力を賜り心より感謝を
申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、四八以
来の豪雪に見舞われた中で明けた一
年、北陸・九州南部での記録的な集中
豪雨、子どもたちを犠牲にした目を覆
いたくなる様な出来事、全世界に大き
な衝撃を与えた北朝鮮問題など国内外
を問わず、多事多難の年でありまし
た。

一方ではうれしいニュースもあり、

皇族家の親王様誕生、トリノ冬季五輪

ファイギュアで日本勢として大会史上初
となる金メダル獲得、ワールド・ベー
スボール・クラシックで初代、世界一
に輝いた日本チーム、世界第二の高峰
K2に日本人女性として初登頂に成功
した秋田市出身の登山家小松さん、都
市対抗野球大会で日本一の偉業を成し
遂げたTDK硬式野球部など明るさを
灯す喜びもありました。

さて、昨年から議会活動の一環とし
て、住民と議会との懇談会を開催させ
ていただきました。

地方分権が進むにつれ、住民の皆様
から行政に積極的に参加をさせていただ
き、住民自治の確立を図ってまいりた
い思いから始めたところであり、各地

区三会場、計九会場での開催でした。

美郷町としての諸問題、諸課題を提
言していただき、議会として対応しな
ければならないこと、執行部にお願
いし取り組んでいただきたいことなど精
査をして応えてまいります。

今後、継続のために今回の反省に
たつて、より多くの方々に出席してい
ただくようPR活動に努めると共に、
地域からの開催要請にも応えてまいり
ます。

さらに、開かれた議会を目指し活性
化を図るため、各定例会前に議程日程
を掲載したお知らせ版の発行の検討な
ど、これからも町民の皆さんを主人公
とした町づくりに努めてまいります。

本年も国体を始め、一大転換期を迎

えた農業問題、合併時の継続事業など
が山積している中で、依然厳しい財政
状況が続きます。

国、県の合併支援の終了、交付税の
算定基準の見直しなど財政の厳しさは
予想以上の速さで進んでおり、一層の
経常経費の節減に努めなくてはならな
いところであります。

いざなぎ景気を超えたと言われてお
りますが、一向に見えてこない県内景
気、すべての面において地域格差のあ
るこの地域、今年こそはさわやかな風
と共に平穏な年であることを願ひ合
せて町民各位のご多幸をお祈り申し上
げ、新年のあいさつといたします。

